

# が ん ば

島三小育友会報  
発行部  
発 報 部  
広 報 部

〔第79号〕

## 小雨決行 普賢登山



六年

坂本裕二

六年生の遠足は、普賢登山だった。これまでの遠足の中で一番楽しい遠足になった。ぼくは、焼山から登る時、「気を引き締めて行こう。」と決意した。そして、登った。はじめは急坂ばかりで遅れる人がいっぱいだった。前の組をぬいたりして、とうとう、一番の所へ行った。他の人を引っぱったりしてきつかった。また、こうもりを見たり、鳩穴に入ったりした。そこは寒かった。普賢池に着いて頂上に登った。「やっ」と着いたぞう／＼と言った。その時はつかれもとれていた。ぼくはうれしかった。そして、白いものが目の前や、あたり全体にあった。それは雲だった。ぼくはうれしかった。なぜなら、前から一回だけ雲にのってみたかったからだ。そしてジャンプしたら、一瞬雲にのったような気がしてうれしかった。ぼくは、ここが一番印象深かった。この時、登ってよかったと思った。それから下山は早く行った。ぼくは、山登りが前よりいっそう好きになった。

六年

土井雅人

十一月七日、遠足は、普賢登山でした。はじめは、登れるかなあと思ってたけれど、わくわくしていました。バスからバスにのりました。バスからおりて、さっそく出発。最初の方は、元気があってすいすい行ったり、前の組をぬかしながらいったけど、先頭の方まできたら、きつくてきつくて、まだかまだかと思つた。そして、風穴を通つてやっ／＼と普賢の池に着いた。だけど、やっ／＼と着いたと思つたら、今度は、ナップサックをおいて頂上まで登らなければならなかった。そして、頂上に着いた。「やっ／＼あ／＼」と思つた。そこは、とても高くて、上から見る紅葉はとてもきれいだった。そして、普賢の池までもどって昼食をした。だけど雨がふってきたので急いで帰りたいなあと思つた。帰りは雨が降りて地面がぬれ、つるすべつた。ころんたり、ころびそうになりながら焼山まで下り、そこで、しばらく休んで、三小へむかった。学校に帰ったときは、くたくただった。でも、とても、楽しかった。

益田憲吉 西日本新聞 解説委員長 を迎えての教育講演会

# 爆笑の連続の中にも内容は最高!!

「現代の世相と教育を考える」

十二月四日(火曜日)午後一時。平年より気温高く、天候もまたとない講演会日和。三小PTAの熱意が通じたかな?それとも白山地区青少年健全育成会の日頃の精進が良かったのかな?

そして最も心配した聴衆の集まりも、三小育友会の会員は皆んな育友会員だ。白山地区に広げよう教育講演会のワ輪ノとなり、白山公民館の江川さんにとつては、二百並べた椅子に、あわてて四十席、二十席と二度も追加して、江川投手顔負けの忙しさでした。牛は水を飲んで乳となし、蛇は水を呑んで毒となす。上からは話がしにくい、奥様方の手でも握りながらの話が熱がはいりますと、まずは軟かくはじまったマスケン節。我が国がわずかの期間で高度経済成長したことが、両刃の剣になってしまった。一方では高度成長をしたが別の面では心がついていかな

かった。すなわち、牛は水を飲んで乳となし、蛇は水を呑んで毒となすのことわざのように、何事も用い方いかんによつては、毒ともなれば薬ともなるということが、今いろいろ起っている教育問題でもあるという指摘。

欲求不満がないことが 欲求不満に 日本が明治以来夢にまで見た、欧米に追いつき追い越せが達成できたのが六〇年代で東京オリンピック、大阪万博、あるいは池田勇人首相の所得増理論、そして消費者は王様だという消費は美德であるかのようにいわれ、その結果、国民総生産(GNP)は世界第二位の経済大国に。

しかしこの時期には、生徒が先生をなぐったり、先生が生徒を刺したり、家庭内での積木くずしなど起っていないところが七〇年代になると一転して、限りなく不透明に近い不確実性の時代といわれ

るようになり、日本が本格的に石油を使いはじめた一九五五年頃から、今では日本のエネルギーの80%は石油に頼っており、原油価格は三十倍。すなわち食に飢え、性に飢え、その飢えと欲求不満を自分で克服した薪エネルギーの時代から、石油エネルギーの現代の生活は60倍の差があり、たとえば、冷蔵庫を開ければ食べたいものは全てそろっており、今の子供達は飢えを知らないで育ち、物質的にもほしいものは全て手にはいるという恵まれた生活の結果、欲求不満がないところが欲求不満となり、一番手近な母をなぐり、ちよっと叱れば父を金属バット

でなぐり殺すようなことがおこるといのが現代の風潮。薪のエネルギーで大人になった明治・大正生まれの人達を日本原人。石油のエネルギーで大人になった、六割近く(日本の人口の)戦後派を新日本人と分類してみると、母の乳が脹ってくるまで、オギャーオギャーいいながら耐えた日本原人。今はスヤスヤ寝ている赤ちゃんにミルクの時間と起こして飲ませる新日本人。生まれた時から耐えることを知らない子供達が大きくなって、以前には全然なかった精神的な疾病も生まれているという。耐えることを知らない今の子供達に、まず小



学校の時から運動をさせて、耐えることを覚える教育をすすめていかなければならない、とマスケンさんの教育論でありました。

以上オッパイの話から、新婚・演歌・倉田まり子・チエッカーズなど、マスコミで騒がれているホットな話題をとり上げながら、現代の世相の断面をえぐり、なで斬り、そしてわかりやすく教育問題を論ずること一時間半の熱演でした。

講演が終って「面白いとは聞いていましたが、こんなに楽しい講演会なら毎日でも」とか、「教育講演会はずいぶんなるものですが、益田先生の話は楽しませながらも内容のある話で、一睡もできませんでした」など、聴衆も概ね満足されていたようです。※講演内容をテープに録っていますので、試聴ご希望の方は事務局へお申し出下さい。



(T)



# 親の目

面白かった綱引き

本多敏憲

## 父親参観

「〇〇君のお母さんはあん人じゃったとね」。「〇〇さんはお父さんの来とらしたとよ、よか男ね」。子供達の関心を集めた、第二回の父親参観が、十一月十日実施されました。今年は昨年と違って授業参観のあとで、各学年単位で自主的な行事をやっていた。

二年生の娘から、父親参観への案内の手紙を貰った。「きつと来てね。」と言われ、二年生の綱引きに出る事を、約束したのです。さて、当日になり、授業

学年での話し合いや、学級毎の懇談会あり、親子対抗のドッチボール、綱引きといったレクレ

### 学年ごとの催しも交えて

学級部長 松尾正敏

として、「ひざを交えてより本音で教育を語る会」が行われ、メンバーが良かったのか出された飲物のせいとか、本音の本音というものとび出し、親どうしの交流も出来たと、大変好評だったそうです。又、ある学年に於ては、参

参観も済み、次は校庭に出て綱引きの開始です。子供達から順に競技をして、どういふ理由か二年三組の子供は、全部勝ったのです。こりゃいかん。回りを見れば、三組の父親の数が減っているではありませんか、よわった、子供達の時には、「なんばしいよっとか、力ば入れんか」と、ついさっき叱咤激励したばかりだったのです。子供達からは、「お父さん、お母さん達

観後にアンケートをとってありましたが、殆んどの方々から、この行事は良いことである。ずっと続けてほしいとの意見が出ておりました。自分達の授業風景を熱心に見ている人々、担任の先生と話し合う父母、いっしょうけんめい綱を引く大人達、子供はどんな気持ちで私達を視たのでしょうか。何も感じなかった筈はないと思います。きつと……………。

多数の皆様に参加していただいて、無事終了することが出来ました。本当に有難うございました。

ダメネー」と言われたのですが、そこはそれ、親の厚かましさと、「二勝したけん、良かじゃつか」「おもしろかつが、一番良かった」と子供の前では強がりを行い、親同士では、「良かったね、二回でん勝ったけん」と互いに慰さめあいながらも、クラスの子供達と楽しく過ごした三時間でした。



## 教師の目



### 家庭科と心のふれあい

家庭科専科 橋本 筆

「教師は生きた人間、児童生徒を相手にし、児童・生徒の成長を助けることができずばらしい職業です」と、憧れた教員生活も、いつの間にか大きなふしめの年輪を数えてしまいました。常に心とからだで、マイペースに進み本校二年目にして、五・六年の家庭科の専科になりました。明朗で、快活で、元氣溢れる三小の児童との触れ合いを一つの支えにして、それが、

わたしにとっては唯一の生き甲斐でもあります。ただひたすらに、自分の思いのままに口やかましく注意したり、小言をいったり、教師として、ときに母として、わが子のよりに叱ることさえありました。家庭科では、豊かな人間性を高めるために、生活に必要な衣・食・住や家族との触れ合いなど、わたしたちのいのちとくらしを守る教科の特性を十分に理解し、教科に対する興味と関心を持たせるため、先づ家庭科室へ入室するときのえしゃくについて指導しましたところ、上手にできるようになったことは、たいへんうれいことであり、針や糸や布を使つての、ものづくりや調理実習は、どの児童も喜びいさんで、楽しく家庭科の学習をしています。長年、教職にあつて、ややもするとマンネリ化になるところを、初心にかえり、児童と共に喜び、悲しみ、苦しみ心と心の触れ合いを大事にすることこそ、これからの教育のあり方だと、あわただし生活の中で、ふと考える今日このごろです。

\*\*\*\*\*

# 地区懇談会で討議を深めよう!

第24回長崎県PTA研究会が、去る十一月十三・十四日長崎県下の各単Pを代表する千五百名余りの会員の参加の下に、心身共に健やかな児童・生徒を育てるために、「PTAはどうあるべきか」を主題として、六分科会に分かれ、具体的にそれぞれテーマを掲げ、真剣な討議がなされました。又全体会では島原市教育委員会社会教育課長・中山春男先生から、「ふれあいを深めるためにPTAは、どのようにしたらよいのか」という議題を提案していただき、熱心な討議が展開されました。最後に長崎大学教授・川崎宏先生の「明日の教育をめざして」という演題で記念講演があり、盛会に二日間の県P島原大会も幕を閉じました。

○ここでは、二日目の全体会詳細を致します。

## いいことはほめてやる

討議事項の提案ふれあいを深めるために、PTAはどうしたらよいか。  
①心のふれあいを、PTAとしてどのようにとらえていけばよいか。  
②心のふれあいができない要素があるかないのか。もしできない要素があるとしたらその理由は何なのか。  
③PTA活動を通じての心のふれあいの望ましいあり方は、どのようなものか。  
提案についての討議

平戸小・石井さん  
①テレビ「21世紀からの警告」を見た。増収を求めて、森林を燃やし、耕し、そして砂漠になっていく。アフリカの灼熱の夏も、そのことが影響しているのではないか。それを



見て、子供たちは、どういふふうに感じたか。  
②子どもの熟通いの費用のために、サラ金に手を出す。そのため最後に、学校をやるはめに陥る。  
③学歴だけ、勉強だけを求めず、心の教育を求めて子供に接したい。  
有川・神之浦小中高尾さん  
①心のふれあいができない要素にマスコミの問題がある。テレビを見過ぎ、家庭での話さないがな  
②結局心のふれあいがなされず、非行にもつながる。  
③PTAは世論を形成する集団である。  
④俗悪番組の追放を県P大会で決議し、心をふれあう運動を展開していこう。  
中尾副会長

のふれあいがなされず、非行にもつながる。  
③PTAは世論を形成する集団である。  
④俗悪番組の追放を県P大会で決議し、心をふれあう運動を展開していこう。  
中尾副会長

理事会で十分に検討したい。  
北松・口石小 福田さん  
①役員に負担がかかりすぎ、忙しすぎて余裕がない。家庭でのふれあひもなくなる。  
②PTA活動も、もっと余裕のあるものにしていくべきである。  
長崎・伊良林小 内島さん  
①ふれあいができない要素に話し合う機会の少ないことがある。  
③PTAは話し合いの場をつくるのが大切である。  
③地区懇談会で、もっと多くの先生と話し合いたい。  
④家庭では、テレビを見る時間と関係が深いので、短かくするよう運動を展開したらどうか。  
中尾副会長

①簡単に解決できる問題ではない。しかし、工夫と努力は必要である。  
②テレビを食堂に置かない。また、あいさつのような基本的なものをきちんとするようなことから、スタートしたらどうか。  
佐世保・日字小 吉田屋さん  
①心のふれあひは、大人が初めに返ってやり直すことが大切である。

②しっかりとほめ、親も悪いところはあやまる。家庭での親のことばかけ、態度がふれあひにつながる。  
③親がちゃんとすることをしておれば、問題にならないことも多い。  
助言・長崎県教育委員会 社会教育課長 高橋奨先生  
①親として子供のことを考え学び、一緒に力をお合わせる。活動に参加して、明日からどう変わろうとするかが大切である。  
②親が自分にきびしく、そして、人に思いやりの態度をとっていけば、「おかげ様で」という気持ちを起こさせる。  
③親ががんばれば、熱意で周りが変わっていくし、先生方も動き出す。

以上、県P大会の全体会を要約しましたが、六つの分科会については紙面の都合上、報告出来ないのです。県P新聞での報告をご覧下さい。  
(広報部 佐々川)





# \*健康第一\*

副会長 高原 寿 一

「今年もいよいよ残り少なくなき」と、例年の如くこの言葉を用いる師走となりました。一年をふりかえり反省する時期でもあります。副会長として責任ある立場に置かれてそれを問われる時、私事の反省とも重なって、つになく残念な年になりました。誠に不面目なことではあります。九月に体調を崩し入院して以来三ヶ月、運動会・球技大会・父親参観県P大会等、種々行事のひし

めく時期を膺甲妻なく病院のベットで過し、学校・育友会の皆様方には大変なご迷惑をお掛けしてしまつたことです。でも皆様方の御協力に依りすべてが盛会裡に終了したと聞きました。

多くの方々にご心配をお掛けしましたが、お陰様で先月末退院致し、改めて健康の有難さ、重要性を認識する日々です。今後は節制の上撰生に留意し、病気で得た教訓「健康第一」を活していこうと思つております。最後になりましたが、この紙上をお借りし一言お礼の言葉を述べさせていただきます。

## 子どもクラブ紹介

中組 松尾 将功

「ぼくたちの町内『中組』は、男子五人、女子四人計九人という、小さな小さな三小一小さな町内です。こんな町内ですが、ソフトボールやフットベースに全員参加して、みんな仲よく生活しています。

でもほかの町内とちがって、さびしいことがたくさんあります。町内旅行のときやそのほかの行事のときは遊ぶ人が少ないのでとてもさびしいです。けれども

便利なことや、よいこともあり。みんなを集めることなどは、少しの時間で全員集めることができるからです。それに、近所に住む人たちは、みんな三小出身で、昔からぼくたちをよくくせわしてくださいました。また中組に住んでいて一番うれしかったことは、運動会の町内対抗こうりレで、三年連続一位になったことです。これは、足が速かつただけでなく、みんなの息があつていたからです。もうすぐ、広馬場と湊新地と合併するそうです。合併してもみんなと、仲よくやっていきたいと思つています。



## 育友会町内対抗 バレーボール大会

お父さんがアタック、お母さんがレシーブ。恒例の育友会町内対抗バレーボール大会が今年の十一月十八日(日)盛大に行われました。今年も昨年より一チーム多い十九チームが出場。ABCの三パートに分かれて熱戦が繰りひろげられました。

レシーブ・アタックと年々技術も向上し、好プレーが続

## 町内だより

下川尻町 福本 勝子

秋晴の好天に恵まれた11月18日バレー大会は行われました。私達の町内下川尻チームはAパート優勝を獲得し、しかも五連勝に輝いたので。日頃からスポーツには縁遠い私は代議員としてチームの代表でトロフィを手にした時、いかにもエースであつたかのような、うれしさが込められてきたものです。今年も又ひとしおの喜びでもあります。というが、今年のチームは昨年まで活躍されたメンバーが

ごっそり卒業されたために、ざりざりのメンバーで、しかも男性が三人しかいないという中で、いち時は我がチームの大砲でもある主力選手が、当日結婚式出席のため出場できないのではないかな等、大会までハラハラしながら練習に励んできました。試合はこれもまた愛情応援で昨年のOBも馳せ参じてくれまして和気相々の応援風景でした。

今後、この大会を続けてほしいと思います。あまり勝負にこだわらず一人でも多くの人が、参加しやすい大会であつてほしいと願つてやみます。

出する中で、珍プレーもあり真剣なプレーの中にも爆笑があり、体育館の中は一日中、歓声がうずまいていました。

なお、試合結果は次のとおりです。

Aパート	優勝	下川尻町
	二位	新山一丁目
Bパート	優勝	三小職員
	二位	白山町
Cパート	優勝	霊南町
	二位	緑町

このバレーボール大会は育友会員の親睦を深め、健康増進のために行われているもの

なお、この大会にご協力下さつた町内代議員さんをはじめ育友会員のみなさんに感謝申し上げますとともに、今後この大会がますます盛り上がりますますようご指導の程お願い致します。

(体育部)



# 子どもの一日



全校朝会が  
終わって

子どもたちは、朝、登校して、下校するまで、いろいろな活動をしていきます。写真により、その一部を紹介いたします。子どもたちの生き生きとした姿をごらんください。



給食室に  
温食を：



校内年賀ハガキ  
優秀な作品が：



昔ながらの  
「かごめかごめ」



さあ、うれしい  
給食の時間



楽しくおそうじ  
きれいにね！



タイヤ遊びで  
ジャンケンポン

家づくりは木組み、生活は人の心組みとかなり前に聞いたことを思い出しました。私たちの身体の部品はお互に運動しあって全てがうまく動き合う仕組みになっているそうです。休ませておくのはもったいないと思いませんか。それにひきかえ、広報部のみなさんは、ちゃんと町のできごとをひっさげて集まり、話はずみずみ。部長さんころあいをみはからい、やさしい声で「只今から編集会議をはじめます。」いろいろな編集項目が飛び出し、一面のトップや三面のカコミなどがホイホイと決まっていって。楽しい会議というより出来上りの責任の重さのしかかって、ホイホイの階段でひどく気を配っているところ。学校行事のことになると林田・坂庭両先生さっそうの登場となります。広報紙の内容に手づくりのホットな味を一行でも盛り込めたらと全部員が一生懸命です。どしどしのご投稿を期待してやみません。

編集後記



(編集子)